

京都教区時報

今月の小教区の頁 — 綾部教会
特集 — 古屋司教司祭叙階金祝

第56号

発行所

京都市中京区河原町三条
カトリック京都司教区
広報室(Tel 211-3768)
編集責任者 村上透磨
編集部 教理センター
田中司教認可

前教区長古屋司教が司祭に叙階されたのは、昭和三年七月一日のことであった。それからちょうど五十年、その司祭叙階金祝の催しが六月二十九日(木)と七月一日(土)に河原町教会で行われた。

二十九日は聖ペトロ、聖パウロ両使徒の祭日、同司教の靈名の祝日にあたり、日曜日の祝賀に出席できない司祭、修道者のための集会

司祭叙階金祝



— 古屋司教

りであった。ミサは午前十一時から、田中司教はじめ四十名の司祭の共同司式で行われシスターの方の出席も二百名近く、グレゴリオ聖歌の流れるうちに美しい祈りのひとときがもたられた。

ミサのあと、南部婦人連合の奉仕によつて、地下ホールでの祝賀パーティーがあり、田中

司教、修女連のシスター安藤の祝辞、古屋司教の挨拶ののち、歓談の時が続いた。

また二日の催しは午前十時半から、教区と、

古屋司教とは四十年以上も共に生活してきた河原町教会の共催で行われた。

ミサは古屋司教を主司式者として、この日

ためにわざわざ来洛された駐日教皇大使ガスパリ大司教、現教区長田中司教、それに司教総代理村上(眞)師、ナドー師、ラカラ師、茨木師が加わって共同司式ミサがあつた。各小教区、修道会代表の信徒六十名が招かれ、河原町の信徒をはじめ、司教などみの信徒の方々およそ四百名余りが参加、聖堂は満席で三、四十名が坐れずに立たままミサに与る有様であつた。

この日のため、古屋司教の設立、庇護のもとに歩んできた河原町聖歌隊は、O.B.にも呼びかけて、四月以来猛練習。洛星の小笠原先生(前同聖歌隊指揮者)が、わざわざタクトをとられ、古屋司教のお好きなラテン語合唱ミサ曲(グリースバッハ作曲)、グレゴリオ聖歌、ラテン語典礼聖歌を準備、五十名をこえる侍者たちが奉仕した。

ミサの説教で古屋司教は、教区、小教区の厚意に深く感謝され、また常に善意と微笑で人に接することができたのを神に感謝された。そして、これからも主によりたのんで信仰を生きぬこうと励まされた。

押領祈願ののち、教皇パウロ六世からのお祝いのメッセージ、田中司教、教皇大使、シスター代表、信徒代表のお祝いの言葉、祝電の披露、花束の贈呈があり、十二時半にミサが終つた。そのあと地下ホールで超満員の祝賀パーティーが和やかに続けられた。

- | | |
|--------------------|----------------------------------|
| ▽七月十六日(日) | 堅信式 於・桑名教会 |
| ▽七月二十六日(木)~二十八日(土) | 教区中学生鍊成会 メリノールハウス |
| ▽八月十一日(日)~十三日(日) | 滋賀地区青少年夏期研修会 対象・小五~高三 於・メリノールハウス |
| ▽八月十三日(日)~十七日(日) | C.L.C全国集会 於・本能寺会館 |
| ▽八月十九日(日)~二十日(日) | 奈良地区中学生鍊成会 於・長野 |
| ▽八月二十一日(日)~三十一日(日) | △奈良地区高校生鍊成会 於・メリノールハウス |
| △八月二十一日(日)~三十一日(日) | 奈良地区高校生鍊成会 於・メリノールハウス |
| △八月二十二日(火)~二十四日(木) | △カブチン会黙想の家(沖縄) |
| △八月二十一日(日)~二十三日(木) | 日本宗教青年犬山会議 寂光院(愛知) |
| △九月四日(日) | 教区高校生鍊成会 メリノールハウス |
| △九月十一日(日)~十四日(木) | △祭評議会定例総会 カトリック会館 |
| △九月十一日(日)~十四日(木) | 司祭のための社会に関する研修会 於・熱海ビレッジ |

ボーロ様へ

古屋司教、司祭叙階金祝に当たり私達教区民として心からの慶びを表わしたい。ここに司教の隠れたエピソードを何人かの方々に書いていただくことにした。

古き屋に伝え人の生命をば

義しといくかは之御身が愛

若き日の司教様

(高野) 丸山吉高神父

私が古屋司教様はじめてお目にかけたのは昭和九年の九月頃であった。当時勤めていた銀行の転任命令で名古屋支店から京都支店詰となつたときである。

信者証明書をもつて大宮通り篠屋町の借家の仮教会を訪れたときのことである。当時河原町教会の助任司祭としての少壮氣鋭の古屋神父は、十五、六名の青年男女の信者と求道者に聖歌の練習をしてい

るところであった。自ら歌い、オルガンを弾き指導している活動的な姿に先ず驚いた。その熱心な指導のあいだに冗談をとぼしユーモラスなゼスチャーをするの



古屋司教を語る

親切をしてゆくように」と仰言いました。このお言葉は随分以前にうかゞいましたが、私は忘れることが出来ません。眞の神父なのだろうか」と一瞬疑つた。実はそれまで私を導いてくれたのは神言会のドイツ人の神父だった。この方は実に謹厳そのもので怒りの感情を現わさなかつたが、同時に又笑顔を見せたこともなかつた。だから明るき一杯の古屋師に驚くと同時に「カトリックはこれでいいのだなあ」としみぐく考えさせられた。そし

たなあ」と御嘆息。又電車で御一緒にな

て次第に司祭というのに親近感をもつようになり、「自分も司祭になれるのだろうか」という心が起りはじめた。それまでの私は「司祭とは自分とは全く別の世界の人」と思っていたのだから。

思い出二、三つ

(河原町) 大塚嘉寿子

いつか司教様はお話のなかで「しかも神様の子供だったら、しなくともよい

(河原町) 岡本田鶴子

昭和二十二、三年頃、當時幼稚園の娘を

よく二階まで抱きあげて貴重品だったチ

ヨコレートなどを握らせて下さった。三十年の月日が流れ東京からきた孫たちにも同じようにしていたとき、一瞬タイムトンネルに迷いこんだ思いだった。昔に変らぬ司教様。でもうれしくせにテレて両手のお菓子をもてあましていた彼等の母親と違つて、現代っ子の孫たちは、勢よく手に手にキヤンディをかざして得意気に見せてくれた。

シスター・マリー・エリースと

御聖体大会がマニラで行われた一九三四年、京都教区代表の若き古屋神父は母

堂と共に、竜田丸で渡航。大会の合間に、その当時デヴィスカップ選手候補として呼び声の高かつたメリノール修道会入会前のシスター・マリー・エリースの案内で、

古屋神父はマニラ市内の日本人小学校を突然訪問。予告なしにスケジュールを乱されて面白くないのは校長先生。日本か

らのお客様、古屋神父を講堂壇上で生徒一同に紹介したシスターは、内心どうな

りとスーパーマーケットへお買物。丁度そのときバッタリ出会つた信者の一婦人

に「近頃はカップヌードルも高こうなつたなあ」と御嘆息。又電車で御一緒にな

つたときなど「お互にこれは便利やなあなんべん乗り替えてもえ、し」と敬老乗車券をお見せになる親しみ易さ。数年前までは鮮やかなワインカラーのステッテン姿をお見かけし、又ひざまずいて指輪に接吻させて頂いた私共には時代の移り変わりがしみじみ感じられます。叙階五十周年を迎えた司教様ますますお元気で。

(河原町) 奥原志津

昭和二十二、三年頃、當時幼稚園の娘を

よく二階まで抱きあげて貴重品だったチ

ヨコレートなどを握らせて下さった。三

年途上京都に立ち寄り、一年振りに古屋神父に再会。喜んだ神父は早速神戸にお住まいであった御両親にシスター訪問を電話、でもその電話、神父が親しい人に見せるちょっとびりイジワル気味。

神父「シスターは、こ、今まで来たけれどあなた方に会いたくないといつてます。

びっくりしたのは当のシスター、「どんでもない。神戸にまいります。お目にかかりたいんです。」

神父「出されたものはお茶でも飲まない

そうですよ。」

思わず叫んだシスター「ちがいます！ 何

でも喜んでいたります。」

神父「御馳走だつたら喜んでいただくな

うです。準備しておいて下さい。」

かくて母堂はシスターとの再会を神父にも増して喜ばれ、シスターは古屋神父御両親の大歓迎を受けたというなつかしいお話。

ような校長の顔と、例のニコニコ顔でユーモラスな話を続ける神父の顔を半半にうかゞつていたが知らず知らずのうちに神父の話に引き込まれた。爆笑と拍手のうちに神父の話が終つた時気がついて見たら、椅子から転げ落ちんばかりに笑っていたのは当の苦虫校長。

日本のフルトン・シーン(海外宣教にわられる古屋司教若き日のエピソード)についての説教で有名な米国の司教)といわれた。

日本のフルトン・シーン(海外宣教にわられる古屋司教若き日のエピソード)についての説教で有名な米国の司教)といわれた。

古屋司教様と私

村上真理雄神父

古屋司教様が、司祭叙階五十周年、金祝いを迎えたことは、まことにほんとうに嬉しいことであり、心からお祝い申上げたい。古屋司教様には、私の幼少の頃より、お世話をなつてるので、今更あらうたまつて、何かを書くよう云われても、さて何から書いてよいのか、とまどう。おやじと息子なので、何かにつけて頭が

あがらないことばかりである。司教様が引退なさる頃、「私の失敗は、何時までもあんたの方神父を子供と思つていたことや

前のユーモラスな性格をもつて、多くの人々に、キリストの愛の福音を述べ伝えていっていただきたいと思います。

とはわかつたが、しかしそれを乗越えて
行かなければならぬと思う。そうする
時、「互いに愛し合うならば、それによつ
て人は皆あなたたちが、わたしの弟子で
あることを認めるであろう」(ヨハネ13章
35節) その主の御言葉が、実現されて行
くのではなかろうか?

てくれるのではなかろうか？勿論大人の世界に入つて見て、色々人間関係は？？

ふきふき、ろくに挨拶も出来なかつた。
私は幼な心に、神父さん達というものは、
仲のいいもんやなあ。僕もいつか神父になつて、あんなに神父さん同志仲よく出
来たらいいなあと思つた。神の国の福音
を述べ伝える司祭方が、仲よく働く時、
信徒たちは気持よく司祭方の手伝いをし

昭和十六年十二月八日、午前八時頃、西陣教会の伝道士が、手提金庫をかかえ、私の家に息せき切つて飛び来んで来られた。理由は、今朝マキロップ師はじめ、メリノール会員一同は、古屋司教（當時

私の見た戦争中の古屋司教

(衣笠) 村上透三



前列右から二人目

一、管理運営は古屋司教の指示で私が責任

一西陣教会維持費は信者一同で負担する。
二ミサは毎日曜一つとする。

もらつたところ、四十円集まる見込み、不足分は鏑木、格査氏が引き受けると云う事で解決。ミサは六時半河原町、八時西陣九時河原町で西陣教会の廃止はとりやめになつた。当時ミサの断食の規定は

（神父）と共に河原町教会に軟禁された、これをもつて事の次第を告げる様にとの事であつた。当時長男真理雄（神父）も毎朝河原町の教会にミサ答えに行つていながら、今朝マキロップ神父様が笑いながらお父さんお元気と云われたと告げた朝だつた。こうして苦難の時代が始まつた京都のカトリック教会は司牧者を失つた迷える羊の群となつた。私は思わず「主よ憐み給え」と叫んだのを憶えている。其後司教様は解放されたが、大変な苦難がはじまつた。京都教区唯一人の司祭で

事を思
い出し

事を思
い出して、いたゞきたい。

「張られたとの事、さつそく信者一同集まり、その原因等討議し、貴族員議員彌畑勝太郎氏を通じ、知事にもかけ合つても何も知らぬ、警察部長は、がんとして口をわらない。結局三十日の拘留期限を待つより方法はなかつた。幸い解放されお話を伺つたところ、政治思想統制の、やり玉に上つた結果であつた。収容中の司教様が失言もなさらず刑罰を受け事なく帰られ一同感謝したものであつた。戦争中の苦難はばかり知れぬものがあるが、その二面を述べさせていただいた。開戦の日は聖母マリアの無原罪の祝日に当たり、終戦日は聖母の被昇天でつゝ事と並びて可か能無量の想ひがする。



ガスパリ教皇大使

京都各地訪問

道ひとすじに！

金銀の祝い

今年は古屋司教の金祝をはじめとし、

J・ニュージェント師
(御所教会、マリスト会)

シスター陰山(スヴェール愛徳会)

シスター・メリーアン・シラ坂口

シスター・キヤロライ・イン・遠見

シスター・メリーライ・ネシウス上田

(ノートルダム教育修道女会)

シスター・レネ・金光(聖母訪問会)

シスター・セシリア田中

(ドミニコ宣教修道女会)

シスター・安賀

(コングレガシオン・ド・ノートル

ダム)

シスター・マリア・ゴレッティ

(ウイチタの聖ヨゼフ会)

M・ギニー師(奈良教会、マリスト会)
P・グリン師(八木教会、マリスト会)

J・ニュージェント師
(御所教会、マリスト会)

シスター・陰山(スヴェール愛徳会)

シスター・メリーアン・シラ坂口

シスター・キヤロライ・イン・遠見

シスター・メリーライ・ネシウス上田

(ノートルダム教育修道女会)

シスター・レネ・金光(聖母訪問会)

シスター・セシリア田中

(ドミニコ宣教修道女会)

シスター・安賀

(コングレガシオン・ド・ノートル

ダム)

シスター・マリア・ゴレッティ

(ウイチタの聖ヨゼフ会)

田中司教ローマへ

去る七月二十日、田中司教は諸宗教担

共にローマへ出発した。この使節団は世

界連邦日本委員会によって組織されたも

ので、仏教各宗派をはじめ他宗教の人々

も参加しており、ローマでは、ビーナドリ

枢機卿を交えての会議があつた。

なお八月に香港で開催される司教会議

にも出席の予定である。

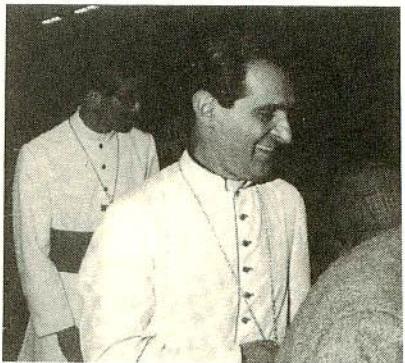
岡季子様(西院教会主任岡淑人師ご母堂)は6月13日午後1時40分、逝去された。邦人教会司祭として6月19日(日)河原町教会で、又西院教会で6月25日(日)それぞれ追悼ミサがささげられ故人の強い信仰を中心としたたえた。

+

岡季子様(西院教会主任岡淑人師ご母堂)

母堂)は6月13日午後1時40分、逝去

された。邦人教会司祭として6月19日(日)河原町教会で、又西院教会で6月25日(日)それぞれ追悼ミサがささげられ故人の強い信仰を中心としたたえた。



去る7月1日古屋司教金祝のため来洛されたガスパリ・バチカン教皇大使は、7月2日の午後より田中司教の案内で京都教区内の学校、施設等を訪問、又司祭団とも親しく面談した。訪問の最初は身体障害児収容施設聖ヨゼフ整肢園で入園児八十名が機能回復のため訓練している。

当日は日曜日のため家に帰つたこどもたちも何人かいたが約三十分の短い時間に子どもたちは花束をもつて出むかえ、教皇大使は一人一人に温いまなざしをそそぎ特に重症の子どもたちの上に特別な祝福と祈りを下さつた。

この訪問は7月5日まで続けられ5日の午後、四日市のエスコラピアス会の海星高等学校の訪問を最後に五日間の日程を終え帰京された。

同和問題を祈ろう

奈良県橿原市の八木教会では、七月二日(1)にカトリック正義と平和京都協議会のメンバーと越知師、井上新一氏を招いて『同和問題を祈ろう』と題する会が行われた。当教会では初めての試みであったが、橿原市の山田教育長、他同和指導室のスタッフも出席した。プログラムは、午前九時のミサに始まり、午前中は映画と討論会、昼食をはさんで午後からは、同和問題で今なお区別され苦悩する人たちのために約一時間の祈りをささげた。参加者の一人深本浩氏より次のような感想が寄せられている。

「現在、小学校においても取りあげられているこの差別問題について、私たちカトリック教会では今まで余りにも無関心というか、私たちに關係のない事として、むしろ避けて通つたのではないかどうか。私たちは何も差別していないから関係はないのではないか」というのが、カトリック信者を含め一般の人々の考え方であると思います。

しかし今日の映画や討論、さらに祈りを通して私は次の事に気がつきました。

すなわち私たちは差別している状態にすら気が付いていないのです。つまり、人に足を踏まれている人は痛みを感じ続けているのに、人の足を踏んでいる人は痛くも痒くもないのです。知らない顔をしているのと同様だという事です。私は聖書に書かれている「あなたたちが、私の兄弟であるこれらのもつとも小さな人々の

くられた事である」というキリストの言葉が、被差別部落で苦悩している人々の事を考へ合わせると本当にびつたりなのに驚きました。そしてこの様な問題を今後真剣に取上げて行く事こそ、カトリック教会が社会との連帯を深めて行く道であると強く感じました。「教会はクラブやサロンの様な親しい者同志の単なる集まりであつてはならない」というのが、この問題を取り上げられた八木教会のグリーン神父様の言葉でした。」

聖母学院増築中

京都伏見の聖母学院では、四月から校舎増築工事が行われている。同学院では、五十二年春いろいろホールの増設、グラウンド、テニスコートの拡張整備などに取り組んできた。あわせて秋からは中高全寮の冷暖房装置付設工事、東四階校舎の増設をすこめてきた。このたびの東校舎の増築をもつて、同学院中高の一連の整備事業は完了することになる。

増設校舎は主として特別教室校舎で、音楽教室、音楽演奏室、美術工芸教室、語学室、社会資料教室などをふくみ、その他生徒保健室、面接室などもある。増設にともない旧Lし教室その他の教室は書道教室、図書特別閲覧室などに活用されることになる。

この整備事業計画は、新しいカリキュラム編成にともなう教科指導体制に対応する設備充実のため、実験実技学習の強

化のため、そして何よりもカトリック的全人教育の実践をねらいとして推進されているが、同学院ではつゞいて短大、小学校をふくめたキャンパス整備がすこめられる。

C.L.C——つてご存知?

あなたにとつて、「キリストと共に歩む」とはどのような意味をもつていますか? C.L.Cの運動はキリスト者の生活の一様式であり、生活のあらゆる領域で教会と社会のために、奉仕できるよう献身的な男女を養成しようとするとする信徒の運動です。もう少し具体的にお話しますと、私達のグループ(通常各グループは4~8人程度)はおむね毎週1回「例会」をもちます。「例会」の目的は、御ことばを通してメンバーの一人一人が、(1)あらゆる次元において自分の人間としての生活を深め、もつと豊富になる。(2)日常生活の中でキリストを見いだすことができるようになる。(3)そのようにして見いだされたキリストによって、他人に対してもキリストに対しても、もつと徹底的に奉獻した生き方をすることができるようになります。

かと言つて私達のグループは決して固苦しいものではなく、大変楽しくやつておられます。一度気軽に寄り下さるようお待ちしています。京都では河原町教会5階(二二三三一三九一)において毎週月曜日夜7時から「例会」をもつており、桂教会の齊木師に入っていたい

タイプ・活版
オフセット} 各種印刷

今道印刷

〒602 京都市上京区天神筋一条下
ル下堅町152
電話(075)463-6024番

祝花、供花、式場装飾



JFTD加盟店

オリジナル フラワー・デザイン

株式会社 桂花園

京都市西京区川島玉頭町41
TEL (075)381-5389・391-0301

地域環境に調和した
ユニークな都市創りをめざして

△会社 株式会社金山工務店

本社 大阪市東区内淡路町1丁目2番地
電話 942-5461番(代)

滋賀支店 滋賀県大津市皇子ヶ丘1丁目2-3
電話 24-1816番(代)

<p>この整備事業計画は、新しいカリキュラム編成にともなう教科指導体制に対応する設備充実のため、実験実技学習の強</p>	<p>化のため、そして何よりもカトリック的全人教育の実践をねらいとして推進されているが、同学院ではつゞいて短大、小学校をふくめたキャンパス整備がすこめられる。</p>
--	---

京都市内の信者のための

結婚互助会発足

信者（特に女性）と未信者の結婚の場合、配偶者に性兼なく信仰を守る事のむづかしさは衆知の事実、又男性より女性信者の多い現状では、信仰に理解ある配偶者を得ることも容易な事ではない。信者同志の結婚の世話はいわずもがな、未信者の配偶者をも求道者になるよう勧め導くよう、カナの会—京都市内各教会の有志婦人連合会一は、田中司教の承認を得て、丸山師を中心各教会主任司祭推薦の壮年、並に婦人世話係と共に「京都都教区各地区に同様の組織が生れることを期待している。尚「結婚互助会」では、多数の未婚の方々が気軽に下記の世話係に相談、申込みをされるよう望んでいる。

教会名	氏名	電話番号
河原町	龜井 高衛	811-14472
桂	的埜 のぶ	231-19392
北白川	石卷 健藏	391-14338
桂	大西 栄子	391-12460
北白川	田辺 正博	721-19288
衣笠	湊 敏子	701-13415
九条	藤田 博	691-12863
小山	田中 静枝	441-15232
高野	中島 喜六	691-13388
西院	渡辺 千枝	492-13338
西陣	杉下 安雄	711-12596
桃山	松田 寿世	802-15277
伏見	藤川 トミ	781-14987
山科	林 貞治	451-13010
桃山	山口すゑ子	641-17545
伏見	吉村 勝義	594-12064
桃山	田中 金子	601-13020
山科	村田 祥子	581-13918
指人形の使い方、話のしかた	右に同じ	
申込先	教理センター・アネックス	

教会学校研修会

指人形の使い方、話のしかた
申込先 教理センターAネツクス

日時 10月1日(日)午後1時半～4時半
場所 桂カトリック教会
テーマ 「初聖体の準備と聖体拝領後の子

会費 五百円

講師 Sr 景山あき子（援助会）

司教の足どり



12	11	10	9	8	7	5	4	3	2	7月 ⑩	29	27	26	25 ⑪	19	17	14	13	12	11 ⑪
宣教司牧セントラル理事会(東京)	久居教会堅信	司祭評議会総会、代表者会議	教理センター理事会	国際宗教同志会企画委員会(三条)	女子ドミニコ会総長来訪	スコラビオス司祭団	久居教会堅信	大天使巡回(クリスマス)	大使巡回(カルメル、マリスト司祭団、南勢カトリック老人ホーム、松阪教会、三雲カトリック児童園)	大使巡回(カトリック、聖母学院、邦人司祭団、比叡山延暦寺、メリノール司祭団)	大使巡回(小羊会、聖ヨゼフ整肢園、女子カルメル会、洛星ヴィアトール会)	大使、マリオ・ガスパリ大司教臨席	古屋司教の司祭金祝ミサ、駐日大使	古屋司教の司祭金祝ミサ(西院)	司祭有志の集い(九条勵く人の家)こひつじの苑訪問	故岡季子(岡崎母堂)追悼ミサ(西院)	邦人司祭月例会(三条)	CLC代表者会議	司祭評議会復興30年記念韓国清洲司教來訪	
宣教司牧セントラル理事会(東京)	久居教会堅信	司祭評議会総会、代表者会議	教理センター理事会	国際宗教同志会企画委員会(三条)	女子ドミニコ会総長来訪	スコラビオス司祭団	久居教会堅信	大天使巡回(クリスマス)	大使巡回(カルメル、マリスト司祭団、南勢カトリック老人ホーム、松阪教会、三雲カトリック児童園)	大使巡回(カトリック、聖母学院、邦人司祭団、比叡山延暦寺、メリノール司祭団)	大使巡回(小羊会、聖ヨゼフ整枝園、女子カルメル会、洛星ヴィアトール会)	大使、マリオ・ガスパリ大司教臨席	古屋司教の司祭金祝ミサ、駐日大使	古屋司教の司祭金祝ミサ(西院)	司祭有志の集い(九条勵く人の家)こひつじの苑訪問	故岡季子(岡崎母堂)追悼ミサ(西院)	邦人司祭月例会(三条)	CLC代表者会議	司祭評議会復興30年記念韓国清洲司教來訪	
宣教司牧セントラル理事会(東京)	久居教会堅信	司祭評議会総会、代表者会議	教理センター理事会	国際宗教同志会企画委員会(三条)	女子ドミニコ会総長来訪	スコラビオス司祭団	久居教会堅信	大天使巡回(クリスマス)	大使巡回(カルメル、マリスト司祭団、南勢カトリック老人ホーム、松阪教会、三雲カトリック児童園)	大使巡回(カトリック、聖母学院、邦人司祭団、比叡山延暦寺、メリノール司祭団)	大使巡回(小羊会、聖ヨゼフ整枝園、女子カルメル会、洛星ヴィアトール会)	大使、マリオ・ガスパリ大司教臨席	古屋司教の司祭金祝ミサ、駐日大使	古屋司教の司祭金祝ミサ(西院)	司祭有志の集い(九条勵く人の家)こひつじの苑訪問	故岡季子(岡崎母堂)追悼ミサ(西院)	邦人司祭月例会(三条)	CLC代表者会議	司祭評議会復興30年記念韓国清洲司教來訪	

信徒使徒職とは…………?

その三

もう何十年も前の、日本人の生活が未だ貧しかった頃の話です。

Aさんの家に永年出入りしている米屋さんが、或る日、

「奥さん、奥さんは他の人とはどこか違いますね。大抵の人は、沢山お金があるのに無いふりをしたり、無いのに有るようみせかけたり、何かそういったことがあるのです。失礼ですが、奥さん

のところは子供さんも多く、それ程裕福とは思えないのですが、奥さんには他の人のようなところが全然ありません。」

と思わず口に出したのでした。
A夫人は、それ程健康に恵まれてはおられませんでした。それに子供さんも多かつたので、教会の役員になつて華々しく活躍されるということはありませんでした。日曜日には子供さんと一緒に御ミサに与る他は、殆んど家に居て家事に専念されるという毎日でした。しかし、後に、子供さんが何人も司祭やシスターとして活躍されていることや、先程の米屋さんの感動を考え合せますと、A夫人の家庭における日常は「キリスト教徒としての真正な生活」であつたに違いありません。A夫人は福音に従つた生活によつて信仰をあかしされ、家庭において、真の福音宣教をされたのです。これこそ立派な信徒使徒職であります。これが今居るところで(そこは神から信徒使徒職とはこのように、信徒一人

召し出されたところです)、福音に従つて行動し、生活することです。沢山の信徒が集つて、年に何回か、宣教のために何か大きな行事をするというような華々しいものではありません。

私達は、キリスト教徒であるということで、キリスト教徒として正しく生活しているという錯覚におち入つてはいけないでしようか。丁度ファリサイ派の律法学者達が律法に通じているということと、律法に反していないと錯覚していたのと同じようになつてはいけないでしようか。

キリスト教徒としての真正な生活は、人に見せるために行うものでないことはいうまでもありません。しかし、「隠されているものであらわにされないものはなく」(マルコ四の二二)といわれているように、月に何回か米を運んでき、せいぜい挨拶程度の言葉を交すにすぎないような米屋さんでさえ、A夫人に何かを感じたのです。「この人は、他の人とはどこか違う。どうしてだろう。」

という問いかけが心の中に生れたのです。これは、イエズス様の後につき従い、イエズス様の言葉を待ち受けた多くの人々の心と同じものではないでしょうか。

ここで「ことばによる信仰のあかし」が必要になつてきます。次号では「ことばによる信仰のあかし」について考えてみたいと思います。

信徒使徒職についての体験ご意見、質問のある方はご遠慮なく編集部へお寄せ下さい。

信徒使徒職

同和問題についての啓発を各小教区で

井上新二

今年の3月12日、京都でカトリック正義と平和京都協議会によつて、「福音」と部落問題」というテーマで集会がもたれた。

その集会の中、ある女性が「自己の被差別体験を語られた。被差別体験を語られた女性のことばの中に「信仰の熱心」な信者から結婚においても日常生活において何度も差別を受けた」というシヨッキングなことばがあつた。

少いなげられた人々を最も大切にし、そな人々と共に悲しみ、共に祈られたキリスト、一方、その弟子として一生涯

キリストと共に歩きたいと望みながら差別をしてしまつた「熱心なキリスト」はいうまでもありません。しかし、「隠されているものであらわにされないものはなく」(マルコ四の二二)といわれているように、月に何回か米を運んで、せいぜい挨拶程度の言葉を交す

夫人に何かを感じたのです。「この人は、他の人とはどこか違う。どうしてだろう。」

そのことを明らかにする前に、「キリスト者なら差別をしない」という幻想をまず捨てなければならないだろう。事実色々な集会の中で語られる意見は、非キリスト者と何ら変る所がない。この事実

また、具体的な差別事例をとりあげ、何が差別なのかを学び、キリストと共に歩くとは、具体的にどうすることなのかを明らかにしていく必要があるだろう。その中で「同和」地区住民の苦惱を通じて語られるキリストのメッセージを聞くことが可能になるのではないだろうか。また、これから啓発活動を、どの場どのように行なつていくかも重要な課題である。

拡大編集会議



内部対話の必要性を実感します。

司 「さて、編集長の説明の終りましたところで、時報の全体的印象からお聞きしたいと思います」

「今日の会合について私達の主任司祭の諒解はあったのでしょうか。奇異に思われるかも知れませんが、私達の北部では司祭の諒解がないと何もできないとしても出でないのです。」

■ 「今日は金祝のついでにこういう事で出席していますが同感です。実はこの連絡員も、いつの間にか知らなかつたのが実情です。」(笑)

■ 「郵便物が開かれまい放置してある事もあるので、気のついた時は遅かったという事も少なくありません。他の教会を見ていると、多忙な活動で苦しい事もあるでしょうが、しっかりした手応えで報われていると思います。私達には

それがないのです。」

※以外な話がしばらく続きました。宣教師の方の言葉の問題もあると思いましてが昨年の復刊時に司教様の言われた「内部対話」が胸にひびきます。

もつとやわらかく

■ 「記事にする時に、司教や神父に様はつけないのでですか」編 「つけません。私は長い間の学校や教会で広報誌を扱ってきたのでむしろ注文より同情の方が先に立ちます。(笑)一つだけ言わせてもらうなら、たとえば子供達の作品だけでもくる員とか、漢字をやめて、では、読者のアンケートなど、いろいろ



きるだけ、ひらがなを多くするとか、そすれば、もっとやわらか味のある紙面になるのではないかと。写真をもつとふやせばどうでしょうか。」

■ 「印刷の仕事をしているので、当然のなりゆきで、よく時報を他紙と比較します。」

聖イエス会のものなど殊に、よくできているようです。時報で気のつく事は、誤字の多い事、編集がゴヂックと明朝体のくりかえしで単調など、紙質がぼこりっぽい事などです。文字の選び方等も工夫してもらい、もっと変化のあるものにしたい。全体にやわらかみに欠けるようです。もっとも予算の心配もあるようですが、

※いちいちこもつともで勉強不足を痛感しました。

どうも手元にくるまでが長すぎます。

■ 「部数はどの程度出でているのでしょうか」編 「全部で二千八百部ぐらいです」

「第一日曜日に来るはずなのに来ない事が少なくありません。本当に知りたかった事、たとえばお知らせ等、過ぎてから知ることがあります。多少費用がかかりますが、

※カトリック新聞の読まれていないといふ現況の話がしばらく続きます。

司 「何かよい方法はありませんか」

神父様のお話の中で新聞の記事のサワリを少し言われて、詳しい事は新聞に書いてあるからと言われた時、みなさ

題の準備もできたと思うのですが……」

司 「今回は、深く考えずお名前と顔を一致させる方を優先したのです」(笑)

「きっとそつたと思いました」(笑)

※先程の北部の方の意見同様、「ミニケーションの不足が話題になりました。」

私達は十年来の知己のように話し合っています。

カトリック新聞は誰も読みませんね。

「教会の会合で靈的読書がテーマになつた事があり、その時に知つたのがカトリック新聞を読んでいる人がとても少ないので。時報もそうかも知れませんね。もっと効果的にアピールする何かないものでしょうか。」

編 「司教様のお話ですとカトリック新聞の教区内購読部数は五百七十六部だそうです。京都は京都だけで生きているのではないし、自分達を知るためにももっと広い世界を知る事が必要です。そんな意味でカトリック新聞を、もっと読んでほしいですね」

※カトリック新聞の読まれていないといふ現況の話がしばらく続きます。

司 「何かよい方法はありませんか」

神父様のお話の中で新聞の記事のサワリを少し言われて、詳しい事は新聞に書いてあるからと言われた時、みなさ

司教様の御挨拶のあと、村上透磨編集長から時報のこれまでの経緯、編集の方針、貢の構成、また各頁の目的等について詳細な説明がありました。司会は編集部の(き)氏、文中の司、は司会者、編集部スタッフの発言です。

司 「さて、編集長の説明の終りましたところで、時報の全体的印象からお聞きしたいと思います」

「今日の会合について私達の主任司祭の諒解はあったのでしょうか。奇異に思われるかも知れませんが、私達の北部では司祭の諒解がないと何もできないとしても出でないのです。」

■ 「今日は金祝のついでにこういう事で出席していますが同感です。実はこの連絡員も、いつの間にか知らなかつたのが実情です。」(笑)

■ 「郵便物が開かれまい放置してある事もあるので、気のついた時は遅かったという事も少なくありません。他の教会を見ていると、多忙な活動で苦しい事もあるでしょうが、しっかりした手応えで報われていると思います。私達にはそれがないのです。」

※以外な話がしばらく続きました。宣教師の方の言葉の問題もあると思いましてが昨年の復刊時に司教様の言われた「内部対話」が胸にひびきます。

もつとやわらかく

■ 「記事にする時に、司教や神父に様はつけないのでですか」編 「つけません。私は長い間の学校や教会で広報誌を扱ってきたのでむしろ注文より同情の方が先に立ちます。(笑)一つだけ言わせてもらうなら、たとえば子供達の作品だけでもくる員とか、漢字をやめて、では、読者のアンケートなど、いろいろ

きるだけ、ひらがなを多くするとか、そすれば、もっとやわらか味のある紙面になるのではないかと。写真をもつとふやせばどうでしょうか。」

■ 「印刷の仕事をしているので、当然のなりゆきで、よく時報を他紙と比較します。」

聖イエス会のものなど殊に、よくできているようです。時報で気のつく事は、誤字の多い事、編集がゴヂックと明朝体のくりかえしで単調など、紙質がぼこりっぽい事などです。文字の選び方等も工夫してもらい、もっと変化のあるものにしたい。全体にやわらかみに欠けるようです。もっとも予算の心配もあるようですが、

※いちいちこもつともで勉強不足を痛感しました。

どうも手元にくるまでが長すぎます。

■ 「部数はどの程度出でているのでしょうか」編 「全部で二千八百部ぐらいです」

「第一日曜日に来るはずなのに来ない事が少なくありません。本当に知りたかった事、たとえばお知らせ等、過ぎてから知ることがあります。多少費用がかかりますが、

※カトリック新聞の読まれていないといふ現況の話がしばらく続きます。

司 「何かよい方法はありませんか」

神父様のお話の中で新聞の記事のサワリを少し言われて、詳しい事は新聞に書いてあるからと言われた時、みなさ

時報担当者会出席者名



んあわてて読まれた

「テープでも、電話ででも歓迎です

第一回時報担当者会議 を終えて

司 「テープでも、電話ででも歓迎です。いつぞ定期的にテープの送りつけを
してはどううでしよう。」(笑)

※ もつといらり出でまくわが与ねられた時間が少なくなつてきました。

司 「この会合について御意見はありますか。」

せんか。」「もつと長い時間をかけてほしい。
「定期的に開くという提案はどうで
しょう。」

■ 「その前に言わせて下さい。連絡の
行つてない教会があります。尾鷲、津南
久居、名張などです。巡回教会とは言々
しっかりした人達が守っています。」

編 「負担になつてはと思い巡回教会に
は御案内をしませんでした。お話を聞いて
て今後は御連絡したいと思います。」

■ 「さき程の話ですが、スタッフがあ
ちこちへ出向いてもゆうとより効果的だ
と思ふのですが。」

■ 「苦労や悩みの多い教会の役員さん
達と連絡をとり合いたいのですが……。」

■ 「今日の金祝や、この会合でこんな
にも多くの信者、こんなにも多くの男性
が居られたかと改めて感じて(笑)意を強
くしました。せつかくの機会なので今
後は司教座のミサにあずかれるよう配慮
して頂きたいと思います。」

司 「ほんとに遠いところ、沢山の方に
集まつて頂き有難うございました。御意見
を見整理の上、計画なり学習なりをす
めたいと思います。」

各小教区の時報担当者の集りを持つこと、編集部に全く不安がなかつたわけではありません。初めての試みでもあり、果して何人の方が集まつてくださるか、時報をささえる‘共同体’として相応しいスタートになるかなと。しかし、これらのものは杞憂にすぎませんでした。

この会議で私たちは本当に多くのことを学び、また励まされました。時報が不十分ながらも皆様の関心を集めつあり、単に教区内のコミュニケーションをよくするという以上の別の役割も課されているように感じられました。もっと生活に密着し、実生活に欠かせない時報づくりに努力を続けなければと思いました。またそれと共に「編集」という仕事に対する勉強不足も痛感しました。より読みやすい時報づくりにも努力します。

」のやうに、」の会議は私たちの活力源となるものでした。出席してくださった担当者の皆さん本当にありがとうございました。これからも、このすばらしい「共同体」が時報を成長させてくださいよう、よろしくお願いします。

最後になりましたが、巡回教会の方にお詫びいたします。編集部の手違いで巡回教会に時報担当者をお願いするのがもれてしましました。深くお詫びすると共に、遅ればせながら依頼の文書を送らせていただきましたので、担当者をお選びください。

免許8

聖書研究会



について一言

聖職者である司祭、伝道士、修道女のなかで特別の使命をもつて布教する人は別として、聖職者が聖書を教えることは難かしいと思われるし、一般的に魅力がないと思われる。しかし聖職者グループの基礎は聖書の研究会が必要であること間違いない。

そこでそのやり方は、2、3人の熱心な信者が適当なテーマを決めてよく準備し、皆が集まつたときに説明する、テーマは何でもよい、たとえば「聖書をどう思うか」「約束された地とは」等。

この時、大切なことは、一発言が間違つているからと言つて決して叱らないことである。その人の考え方について皆で話し合う。聖書を研究することはより一歩神に近づくことだから……最後に司祭がまとめをしてさらに深い意味をもつ聖書の言葉をよく理解し、日常生活に実行することである。

（ネシー神父（綾部教会主任司祭））

献堂21年、創立32年の歴史をもつわが教会は眠つていると云えど叱られるだろうか。「聞いて行わない人は、土地の上にいしづえもおかずには家をたてた人」と云われても仕方ない。若者が減り、中高年信者がボロ布の帆を立て、皆でなんとかせねばと支えている。これが綾部教会の姿である。

（聖職者と吉川家）

綾部教会の歴史を語るに吉川家の人々を除いて語ることはできない。キリストのパン種を当地にもつてこられたのは、今は亡き医師吉川五六先生。2代真手雄先生も、ここに教会をと宅地、建物を献上、わが教会ができるのである。1人の司祭、3人のシスターを主に捧げられた聖家庭で、信者は「親戚以上に大切」と話す。聖書を研究することはより一歩神に近づくことだから……最後に司祭がまとめをしてさらに深い意味をもつ聖書の言葉をよく理解し、日常生活に実行することである。

（ネシー神父（綾部教会主任司祭））

主よ、わが愛する

綾部教会を守り給え

（現状）

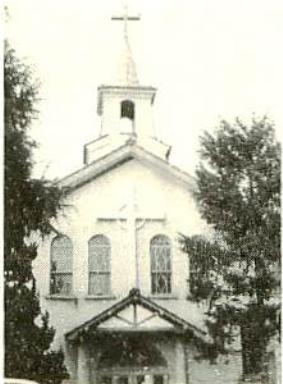
西本神父曰く「フィリピンでは、毎日曜日ミサにあづかる信者は聖堂に入りきれず廊下まで溢れて、その数ざつと10万人、たまに綾部に帰つてみると20数名、あまりにも数の差が大きすぎる」と笑つて説教。教区時報によると名簿信者115名、ミサ参加者25名、22%の参加率である。

・家庭地区集会

日曜にいろいろの事情でミサに来られない信者のため、四地区に分けて集会を行つたのが7年前。祈り、聖歌、社会問題、聖書講義など、時には、ミサをあげていただいた。当初は意図した目的どおり集まる人も多く、欠席者も必ず連絡があつた。現在は、集まる人も少なく地区を縮少2地区合同でしているが、当初の1地区にも及ばない集会である。諸原

がいかにしんどいことか、聖堂の維持に2年前まで、毎年、特別献金を募った。信者が転出などで減少傾向にあるなか、なんとか喰い止め信者を増やしたい。

●名物



綾部教会

小教区の貢

復活祭は信者中心、クリスマスは市民中心というスローガンのもと、当教会が、布教活動にもつとも力を注いでいる行事である。「広報、典礼、装飾、バーティー、総務」の分担を決め、バーティー券は信者の布教意志をあらわす方法として信者で購入、友人、知人を招待する。138名の礼拝者がフィリピンほどではないが当教会を満たす。なかでも羊飼に扮した子供達の馬小屋訪問行列は暗闇のなか「静けさ」の歌に合わせ感動のドラマとなる。ミサ後のパーティは婦人部の腕の見せどころ、壯年が早朝よりついた餅2ヶ入、大どんぶりの特製ゼンざいで、いまやクリスマスの名物となつて喜ばれている。

（期待）

大神学校へ入学までわが教会を司牧してくれる予定、昨年よりの祈りを主が叙階される予定、昨年よりの祈りを主がお聞き届けくださいれば今年最大の喜びとなる。なお一層の祈りと犠牲を主に捧げよう。

7年前、プロテスタント教会と対比、私たちも独立せねばと、維持運営のすべてを予算に計上、年間計画をつくり、教會

アクティブな司教様

我が登美ヶ丘教会の堅信式のため、わざわざ京都は河原町三条から田中司教様がおいでになった。

前日の夕刻、司教様は、自分で車を運転して来られた。その時は、いつもと違つて眼鏡をかけておられなかつたし、私は司教様が現われた時、この方は、きっと司教付の神父で運転をしてきた方だろうと思った。ところが神父様やンスター方がいやにかしこまつて出迎えられたりされたので何だか変だなと思っていると、何と司教様です!! 今まで私の考えていた司教様のイメージ(かつて大阪教区の田口枢機卿様を見て)と大ちがい。気がついて、自分は何という思い違いをしていたのだと内心恥しいやら、申し訳ないやら。とにかくこうして司教様は登美ヶ丘へやつて来られたのだつた。

翌日、司教様を囲んでのパーティーでも司教様は、私たちの前で歌までうたつてくださつた。本当に私は思ひもよらないことばかり、親しみやすいユーモアもあるし。司教様を見ていると、昨日の司教付の神父様だろうなんて考えたことが悔まれてならなかつた。本当に人は見かけによらない(決して悪い意味ではなく)というか、何というか、司教様本当にすみませんでした。(登美ヶ丘教会信者会だより第8号より)

サブローー神父様

三年前の丁度今のようにむし暑い日が

続く頃だった。解放感と希望に満ちた大學生生活が始まって三ヶ月、下宿生活に慣れたとは言え、まだ故郷が恋しかつた。不安定な気持で教会への足も遠のきがち、たとえ行つてもそそきとお祈りだけすませて帰つていた。そんなある日曜日、お説教の途中にフット意識を失つてしまつたことがある。御ミサを終えて出でこられた神父様に「だいじょうぶやね!」とドンと励まされたのがサブローー神父様との直接の出会いだつた。

私が教会という神との対話の場、兄弟との出会いの場、そして私が生きているということの思考の場を確保できたのはサブローー神父様のおかげだ。

(場の確保に終わりそなのは問題だが)それにしても神父様のお部屋では、実にいろんな事を教わつた。教会での出来事、生活の中で印象に残つたことなども結構です。また時報文芸では、和歌、俳句、詩を紹介します。

読者の責

ダマスコ途上

稿規程

芽

一生元 (八)

右座義文

—京都教区五十年を振り返って

戦後人々のキリスト教に対する目は大きく変わり、この宗教について知りたいと望む人が非常に多くなり、私も種々の団体から講演を頼まれました。ある時は中立壳の警察で大勢の警官を前にキリスト教を紹介しました。この時は戦時中、役目柄しかたがなかつたのでしようが、警官からはずいぶん虐待されたことを思い出し、世の中は変わるものだとつくづく考えさせられたものです。警察といえば戦時中こんなことがありました。当时河原町教会は外国人宣教師達の抑留所となつており、数名の警官が厳重に見張つており、誰も入れないよう縄まで張りめぐらせてありました。賄いのおばさんが食事一切の世話をしており、そのお嬢さんも時々手伝いに来っていました。

ある時見張りの中でも一番うるさくて堅苦しい私の大嫌いだった警部補のAさんが私を呼び出してこういっています。「あの賄いの娘さんがとても気に入ったのでぜひ結婚したい。何とかしてほしい」私はびっくりしてしまいました。しかし神様の働きをきえぎることはできませんでした。高野教会のバーン師に頼み結婚式をあげてもらい、クリッキーとお茶できさやかなパーティをしたのでした。この警部

補は後警部に昇進、終戦後にはキリスト教の勉強をして洗礼を受け、現在は熱心な教会役員として活躍しています。人は見かけによらないとは、このようなことをいうのでしょうか。



さて当時現役の日本人司祭は私一人でした。出征した上田神父は無事帰り、又大連教区から岡神父が京都教区に移り働くことになり、丸山神父の隣階と京都教区は希望に満ちていました。ただ出征した森神父のフィリピン玉碎は残念になりました。

さて当時現役の日本人司祭は私一人でした。出征した上田神父は無事帰り、又大連教区から岡神父が京都教区に移り働くことになり、丸山神父の隣階と京都教区は希望に満ちていました。ただ出征した森神父のフィリピン玉碎は残念になりました。當時私は自転車に乗つて各教会を巡回していましたが、普通の自転車では間に合わなくなってしまい、思いあぐねた末

かげでぐんとスピードアップし、宣教活動にこの自転車は欠くことのできないものとなりました。河原町教会の日曜のミサは米軍の関係者であふれる程の人で埋まり、このミサが終ると私は愛用の自転車に飛び乗つて京都御所をつつ切つて西陣教会へ飛び込みます。ここでミサを終えると次は小山、高野という風に日曜日は食事をする時間もなく、(当時は聖体拝領のため前夜の十二時から断食)飛び回っていました。今考へてもよく倒れなかつたものと思います。

このモーター付自転車では面白いことがありました。当時も車進入禁止の道がありましたが私は急いでいるあまり、その通りを走つていました。すると警官がやってきて「それはモーターがついてるのでここを走ることはできない」といいます。私は「いや、これはモーターの取りはずしができるので自転車なのです」といいますと警官は首をかしげて「そうですか……?」といつて、それでも通してくれました。又三条では自転車の通行禁止の時間に走つていましたら捕まりました。私は「これはモーター付き自転車で軽自動車の一種です。」といふと、警官は「そうかも知れませんね……」と不審そうにしながらも許してくれました。聖霊がいわせたか、私の悪(?)知恵がいわせたかさだかではありませんがこんな風に息つくひまもない私の宣教時代でした。

(つづく)

かげでぐんとスピードアップし、宣教活動にこの自転車は欠くことのできないものとなりました。河原町教会の日曜のミサは米軍の関係者であふれる程の人で埋まり、このミサが終ると私は愛用の自転車に飛び乗つて京都御所をつつ切つて西陣教会へ飛び込みます。ここでミサを終えると次は小山、高野という風に日曜日は食事をする時間もなく、(当時は聖体拝領のため前夜の十二時から断食)飛び回っていました。今考へてもよく倒れなかつたものと思います。

このモーター付自転車では面白いことがありました。当時も車進入禁止の道がありましたが私は急いでいるあまり、その通りを走つていました。すると警官がやってきて「それはモーターがついてるのでここを走ることはできない」といいます。私は「いや、これはモーターの取りはずしができるので自転車なのです」といいますと警官は首をかしげて「そうですか……?」といつて、それでも通してくれました。又三条では自転車の通行禁止の時間に走つていましたら捕まりました。私は「これはモーター付き自転車で軽自動車の一種です。」といふと、警官は「そうかも知れませんね……」と不審そうにしながらも許してくれました。聖霊がいわせたか、私の悪(?)知恵がいわせたかさだかではありませんがこんな風に息つくひまもない私の宣教時代でした。

かげでぐんとスピードアップし、宣教活動にこの自転車は欠くことのできないものとなりました。河原町教会の日曜のミサは米軍の関係者であふれる程の人で埋まり、このミサが終ると私は愛用の自転車に飛び乗つて京都御所をつつ切つて西陣教会へ飛び込みます。ここでミサを終えると次は小山、高野という風に日曜日は食事をする時間もなく、(当時は聖体拝領のため前夜の十二時から断食)飛び回っていました。今考へてもよく倒れなかつたものと思います。

このモーター付自転車では面白いことがありました。当時も車进入禁止の道がありましたが私は急いでいるあまり、その通りを走つていました。すると警官がやってきて「それはモーターがついてるのでここを走ることはできない」といいます。私は「いや、これはモーターの取りはずしができるので自転車なのです」といいますと警官は首をかしげて「そうですか……?」といつて、それでも通してくれました。又三条では自転車の通行禁止の時間に走つていましたら捕まりました。私は「これはモーター付き自転車で軽自動車の一種です。」といふと、警官は「そうかも知れませんね……」と不審そうにしながらも許してくれました。聖霊がいわせたか、私の悪(?)知恵がいわせたかさだかではありませんがこんな風に息つくひまもない私の宣教時代でした。

(つづく)

(ア)

(イ)

(キ)

(キ)